



こーひーぶれいく

お祭りの季節

高野 祥子

Takano Shoko



2019年夏 長男（当時生後2か月）と筆者

皆様、お祭りは好きでしょうか？私は大好きです。非日常のワクワク感や大勢の人が集う感じがたまらないのです。好きすぎて悩んだ末に、神輿会に入会して担ぎ手になることにしました。大学6年生の時のことなので、彼此15年くらいの神輿歴になります。

私が担ぎに行くのは、ほぼ神奈川と東京のみですが、それでも神輿は地域によって様々です。例えば当初、かけ声と言えば『わっしょい』だと思っていたのですが、私が担ぎに行く先の中で『わっしょい』が主流なのは東京深川くらい、その他の都内は『そいや』の方が圧倒的に優勢です。横浜では『えいっさ、ういっさ、ふっりゃ、うりゃー』といったかけ声がよく聞こえてきます。足を揃える時には、『らーらーらー』『さーさーさー』等の声がかかり、気合を入れなおす感じで、また『えいっさー！』と始まります。更に、たくさん奉納してくれる地域の有力者のお家の前等では、『させー！させー！』と声がかかります。このかけ声を合図に、全員で神輿を肩より高く持ち上げ、持ち上げた棒の横の部分を押いて見せ場を作ります。`神輿をさす、とは、神様に差し上げるという意思を表しているのだそうです（重い神輿を肩より上げるのは大変！）。

担ぎ方も、横浜や東京では、江戸前と言って担ぎ手の足が全員揃って上下に神輿を揺らしますが（東京の方がペースが早い傾向あり）、湘南に行くとき甚句という唄に合わせて『どっこいどっこい』、『どっこいそーりゃー』というかけ声がかかり、神輿の動きは波をイメージした前と後ろが別々にゆらゆらするような独特な動きになります。人に神輿を担ぐと話すと、よく『肩にガツガツ棒が当たって痛くない？』という質問を受けますが、これにはいくつかコツがあります。まず肩と首をしっかりと棒につけて、肩から腰までをまっすぐに伸ばすように力を込めれば、肩は痛くなりにくいのです（代わりに全身筋肉痛になります（笑））。あとは前の人と足を揃え、辛くても顔をあげて笑顔で担げば、それだけで結構それっぽくなってきます。かく言う私自身もっとカッ

コよく担ぎたくてまだまだ修行中の身ですが。

神輿会に入って一番良かったなと思うことは、やっぱり人とのつながりです。普段の生活ではまず仲良くなる機会がないような職業も年齢も様々な人と仲間になり、1つのことをやり遂げることには、何とも言い表せない達成感があります。そして会員は地元密着かつ専門職が多い集団なので、とても頼りになります。ここではとても書けないような経歴の持ち主の人生の先輩方も含めて、神輿仲間にはいつも本当にお世話になっています。私は横浜出身ではないのですが、ここが地元だと思えるのはこうした仲間がいるからです。

ちなみに都市部の神輿の多くは、地元住人だけで担がれているわけではありません。むしろ深刻な担ぎ手不足のために、地元神輿会は交通整理や神輿の先導等の裏方に徹していて、他所のお神輿会に担ぎに来てもらう（肩を貸してもらう）ことで成り立っています。その代わりに、こちら他所のお祭りがあると担ぎ手として駆けつけます。ですので、私の所属する神輿会も1シーズンで15か所くらいの神輿を担ぎに行っています。知らない人にとって神輿の担ぎ手と言うと、どうも強面で近寄りたがいイメージがあるのではないのでしょうか。でも実際には、貴重な週末をしょっちゅう潰して1円にもならない重労働をしに出かけるなんて、みんな絶対良い人たちだと私は確信しています。

ここ5年ほどは、毎夏が妊娠中やコロナ流行期等に重なってしまい、担ぎに行ける回数が激減していたのですが、この記事を書いているだけで体がウズウズしてきました。来年こそは子供たちも連れてたくさん神輿を担ごうと思います。もしこれを読んでくださった方の中に、面白そうだなと思った方がいらしたなら、ぜひお近くのお神輿を見に行ってみてください。そして話しかけやすそうな人を捕まえて、神輿に興味があると伝えてみてください。きっと大歓迎してくれるはずですよ！

（横浜市立大学附属病院 核医学診療科）